

**生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターさぎの宮担当圏域レベル）  
開催報告書**

**1 開催日時** 令和 7 年 1 月 31 日（金） 9 時 30 分 ～ 11 時 30 分

**2 開催場所** 東行政センター 3階 31・32会議室

**3 参加者** 24名

委員 11名（長上地区：5名、笠井地区：6名）、関係機関 9名、事務局 4名

**4 協議の内容**

**1. 開会**

**2. 前回の振り返り**

配布資料に基づき、事務局より前回の振り返りを行った。

**3. 情報提供①**

活動を紹介していくための取り組み事例について

配布資料に基づき、事務局より情報提供を行った。

【主な意見・質問等】 特になし。

**4. 協議事項・テーマ①**

情報提供を踏まえた「担い手の確保」について

①情報提供を踏まえて印象に残ったこと、感じたこと

②現在、実施している取り組みについて

③今後、考えられる取り組みについて

地区別のグループに分かれて協議を行った。

【主な意見・質問等】

〈長上地区〉

- ・他地区のように数年間役職を務める慣習があるのはよいが、任期が長いと負担に感じてしまう人もいるため適切な任期を設定することが難しいと感じる。
- ・次の担い手を見つける際に大切なのは、相手とコミュニケーションを図ることと、事前に調整をしておくことだと感じる。
- ・担い手として期待される層である仕事を定年退職した方は家に閉じこもる傾向があり、声かけをするのが難しいと感じる。

〈笠井地区〉

- ・企業の事業継承と、地区社協やボランティア団体の事業継承の違いを意識する必要があるのではないかと思われる。特に地区社協やボランティア団体の事業は自主性、任意性が強く、企業とは継承の切実さが異なるように感じる。
- ・家事支援の協力員の声かけをする際に、家族同士で助け合うべきで、なぜ家事支援が必要なのか

など意義を理解してもらえないこともある。

- ・先日地域懇談会を実施したが、様々な年代の方の参加があった。今回の事例で地域での関係づくりがキーワードに挙げられたが、人と人が繋がる機会になるのではないかと感じた。
- ・結婚や仕事などで転入してきた場合には、地域には友人がおらず活動団体のことも分からない状況である。また、地域の活動に参加しようと思っても、すでに地元の方のコミュニティができていると参加や継続に繋がらないと思われる。
- ・地区社協の活動に参加していると、もっと多くの人に活動や意義を知ってもらいたいと感じる。若い層などにも情報発信に関わってもらって、多くの人に知ってもらうための工夫をしていくことも大切ではないかと思われる。
- ・まずは人と人の繋がりを広げ、地域の状況や活動団体の状況も共有していくことが担い手の確保にとって大切ではないかと思われる。その意味で、地域懇談会で挙がっていたコミュニティの活性化を考えていくことが大切ではないかと思われる。

## 5. 情報提供②

GoogleマイマップやJSTATMAPを踏まえた地域訪問結果について

配布資料に基づき、事務局より情報提供を行った。

【主な意見・質問等】 特になし。

## 6. 協議事項・テーマ②

本日の振り返りと次年度の協議について

①本日の協議で印象に残ったこと、感じたこと

②今年度の協議を踏まえて次年度協議を深めたいこと

地区混合のグループに分かれて協議を行った。

【主な意見・質問等】

〈地域訪問結果について〉

- ・改めて自身の地域について第三者的な目線で情報提供をしてもらおうと、新たな発見や気づきがあるように感じる。
- ・民生委員の活動として、困りごとを抱えた人がいれば訪問しているが、それだけでは地域のことはわからない。地域の町並みを見るなど別の視点で地域に出向き、地域について深く知ることが求められると感じる。
- ・長上地区の訪問結果を見ると、今回は比較的社会資源のあるようなエリアだったと思われる。しかし、同じ地域でも社会資源のあるエリアとないエリアははっきりと分かれているため、細かく、バランスよく地域を見ていくことが大切ではないかと思われる。

〈地域の実態について〉

- ・そのエリアが市街化調整区域かどうかなどによって、社会資源の増加や、人口の増加が見込まれるかが変わってくるため、そのあたりも把握できると協議がより深まるのではないかと思われる。
- ・民生委員と家事支援員を混同する高齢者が多く見られるため、違いを説明したうえで高齢者が抱

える困りごとや、どこの地域に困っている方が多いか等の分析を行うことが必要だと感じる。

- ・市野北の公会堂に移動スーパーが来ており、利用者は増えている。インターネットで買い物ができる人は限られるため、移動スーパーの利用を促していくことが大切ではないかと感じる。
- ・笠井地区では家事支援サービスを実施するようになって3年が経つがまだまだ知らない人がいる。また、支援員の確保が課題となっている。
- ・笠井地区の訪問結果を見ると、買い物できるような場所がないエリアは車が必須であり、それが難しい高齢者の方は、家族に頼むか、コンビニでも徒歩で行ける場所に行くかになっているように感じる。

#### 〈その他〉

- ・長上地区社協では、今まで高齢者を対象としたイベントを開催することが多かったため、今後はより広い層の参加を意識して家族向けのイベントを増やしていきたいと感じる。
- ・有償のボランティアもあると聞くが、担い手の確保にあたっては動機付けを図る方法を考えることも大切ではないかと思われる。
- ・家事支援利用者の会を作り、集まった利用者から困りごとを発信してもらうなど、家事支援活動の発展や今後の活動の工夫につながる活動を行えるとよいのではないかと感じる。
- ・地域には様々な特技を持った人がいるため、趣味で作った物を持ち寄って展示販売会を行ったらよいのではないかと感じる。イベントをきっかけに人と人のつながりづくりにもなると思われる。
- ・富塚地区に高齢者が住むシェアハウスがあると聞いたことがある。助け合いの一つの形として参考にできることがあるか知りたいと感じる。

### 7. その他

#### (1) 生活支援体制づくり協議体委員報酬の支払いについて

事務局より、協議体委員報酬の支払い時期について周知した。

【主な意見・質問等】 特になし。

#### (2) 次年度の協議体について

事務局より、協議体委員の任期について説明を行い、次年度第1回の日程について確認した。

#### 【協議結果】

日時：令和7年6月4日(水)9時30分から11時30分まで

場所：東行政センター 3階 31・32会議室

【主な意見・質問等】 特になし。

### 8. 閉会

## 5 今後の見通し・ 必要な対応

今回は、「活動を継承していくための取り組みについて」という事務局からの情報提供を踏まえ、「担い手の確保」に向けて各団体が現在実施している取り組みについて協議を深めることができた。また、「GoogleマイマップやjSTATMAPを踏まえた地域訪問結果について」という事務局からの情報提供を踏まえ、主に地域の実態について活発な意見交換がなされた。

今年度は、昨年度までの協議体で挙げられたキーワードを決めていく中で、人と人のつながりを意識した声かけや取り組みの重要性が重要な要素として挙げられたと思われる。今年度の協議体で挙げられた意見を改めて整理し、次年度の協議に活かしていきたい。